

全国一般神奈川 25春闘活動報告

報告 全国一般神奈川 沢口

3月中旬、大手民間企業の集中回答があった。満額回答が相次ぎ、中には要求を上回る回答もあり、世間では昨年に続き賃上げが継続していると言われている。しかし、私たち中小企業労働者、非正規労働者の春闘は、始まったばかりであり、これからが本番だ。中小企業にとって、昨年に引き続き厳しい環境があり、厳しく長丁場になることが予想されている。

全国一般神奈川は、全国協各県代表者会議、組織内学習会を通じて、今春闘の方針を確認してきた。「命と生活を守る春闘」として、職場を起点に、地域、全国の仲間と繋がる春闘、物価高の中で、すべての生活者の生活は厳しくなり、労働者だけではなく、すべての生活者の命と生活を守る春闘と位置付け、25春闘に取り組むことを確認してきた。

組織内的には、3月中旬時点で、11を超える職場でスタートしている。複数の職場はこれから要求書の提出となっている。回答は5職場、うち、2職場が妥結を迎えている。決算書等で確認しても、売り上げの伸びている職場は確認できない。とりわけ医療や介護といった福祉職場は、国の政策により収入が限られてお

り、厳しい状況となっている。25春闘はまだまだ始まったばかりである。地域の仲間と連帯しながら、職場で、地域で、粘り強く25春闘に取り組んでいく。



「日の丸・君が代」強制にNO!ー3.1 集会とデモ 街に出て声をあげよう!

毎年春近い卒業式の季節に、「日の丸・君が代」の強制に反対する集会とデモを横浜で開催している。右翼の妨害などもまもあり、春闘集会で呼びかけ県共闘の仲間たちにも応援してもらっている。感謝!

今年は3月1日に開催。集会では、数年前まで寿町にある「なか伝道所」の牧師であり、フェミニズムの研究者である堀江有里さんのお話を聞く。寿日労のみなさんとは旧知の仲、自身もレズビアンに関わる牧師でもある。トランプが再び大統領になり、米国では移民排斥や性別二元論が強化されるなどマイノリティへの攻撃が凄まじい。しかし、私たちの社会もまた、外国人差別・性差別・異性愛主義・・・、あらゆる差別が蔓延する。この間の入管法「改悪」(2024年 育成就労制度の導入・永住権の取り消しの制度化等)や表面的な「多様性」称揚は、一方で日本の中にある外国人と性的マイノリティへの排除等「差別」を覆い隠す。「分断して統治」と言う形式そのものが、世襲制と伝統的家族主義・家父長制に支えられる国家体制としての天皇制なのだ。

暖かな春の一日、クリアになった頭で、「天皇制はいらない!」「民主主義の社会に王様はいらない!」「性別二元論、家父長制に反対!」「君が代(天皇の歌)歌わないぞ!」と元気なコールで伊勢佐木モールをデモした。(がくろう神奈川 京極)

3/18 要求の実現に向けスト突入!

報告 郵政産業労働者ユニオン神奈川佐藤

郵政産業労働者ユニオンは、郵政グループ内で働く、正社員と非正規社員で組織する組合です。今郵政では、不正行為の発覚が続いている。約一千万人の顧客情報漏洩、取引業者から不当に違約金徴収での公正取引委員会からの行政指導、また配達中の飲酒の発覚など法令順守など絵に描いた餅だ。2019年かんほ保険不正募集の教訓を生かされず、企業の信頼は地に落ちた。組合はこの事態を憂慮。本社に要求を出し改善を求めている中での25春闘となっている。25春闘要求では、①物価高騰を上回る大幅賃金引き上げて生活改善②正社員、非正規社員の不合理な格差を是正し、均等待遇実現③大幅増員と長時間労働の是正を求めている。回答期限を3月12日として、



(本社前での抗議集会・委員長挨拶)

2月14日郵政本社へ要求書を提出し、実現に向けて精力的に団交を行ってきたが、3月13日になって出された回答は、物価高騰を超える大幅賃上げどころか、非正規社員にはゼロ回答。正規社員には5千円のベースアップと定昇実施との低額回答でした。その後3月17日第7回団交開催し、非正規社員への有額回答、

正社員のさらなるアップを求めたものの団交は決裂した。この経過を踏まえ本部は、3月18日に19職場55名へのスト突入の指令を発出、組合員は郵政の低額回答に怒りを込めて、整然とストに突入貫徹した。

スト突入に際しては、全国の拠点職場でスト突入支援集会を開催、14時から郵政本社前に120名の組合員や支援者が集まり、抗議集会を開催、「3・18ストライキ宣言」を確認、正規・非正規の壁を越え、非正規社員の均等待遇、格差を許さず、安心して暮らせる賃金の獲得に向けて多くの仲間と連帯し要求を前進させるために闘い抜くことを決意し集会を終えた。今後25春闘は、中小企業の闘いへと続きます。共に闘おう。

さよなら原発 3・8 全国集会参加報告

3月8日渋谷駅近くの代々木公園で、「さよなら原発集会」が開催されました。3月11日で福島原発事故から14年目となります。この日は雪がちらつく寒中、約3,000人(主催者発表)が参加しました。

集会は、1時30分から開始され、事故処理の状況、福島復興支援、脱原発の取り組み、裁判の取り組みなどの報告がさまざまな団体からあり、参加者は耳を傾けていました。

閉会のあいさつで、鎌田隼さんは、「事故当時、できるだけ早く原発はやめるといった誓いを今はできるだけ稼働するに変わってしまった。青森県の再処理工場は38年たっても完成しない。原発事故以来今も苦しんでいる人たちがいるというのに。これは譲れないし、民主主義にかかわる問題だ。さよなら原発一緒に頑張りましょう。」と集会を締めくくった。参加者は、渋谷駅方面と原宿方面の二手に分かれデモに出発しました。福島事故は終わってはいない、今後も脱原発の闘いを共に続けていこう。



(不当判決を報告をする仲間)